

建築におけるヴェネチア派（ summary ）

ヴェネツィア派は一般に 15 世紀後半から 16 世紀のルネサンス時代に現在のヴェネチア周辺で繁盛した芸術流派の一つであり、基本的には絵画の分野のものを指すが、本発表においては建築分野に着目する。この時代のヴェネチアの絵画・建築に言及した書籍として E.H ゴンブリッジの『THE STORY OF ART』に則る。

現在のヴェネチアの土地は元々潟であり 8 世紀頃より本格的に建設が始まったと言われている。13 世紀初頭には十字軍と連携し、コンスタンティノープルを占領した歴史がある。東方との貿易の関係上、ヴェネチアにルネサンスが取り入れられるのは遅れたが、一度取り入れられるとヴェネツィア派と呼ばれるまでに特色のある繁盛をする。ヴェネツィア派の絵画を概観すればアンバランスな構図・配置を sfumato をはじめとする卓越な技法（色彩の柔らかさ・光の扱い方・空気感）で補っていることが見受けられる。

一方で建築において、明確なヴェネチア派の定義はない。14 世紀頃から始まるヴェネツィアン・ゴシックはゴシック様式の尖頭アーチとビザンティン様式、ムーア様式が融合した様式であるがそれらの代表作として Ca' d' Oro (1428-1430) や Palazzo Ducale (14 世紀-15 世紀に再建) が挙げられる。その後、ヴェネチアにルネサンスが取り入れられるとその様式はさらに豊かで優美なものへと移り変わろうとする。ヤコポ・サンソヴィーノ Jacopo Sansovino (1486-1570) は 16 世紀のヴェネチアで主任建築家を務めていたが、彼の設計した Biblioteca Marciana (1537-1588) はこの代表例として挙げられる。1 階と 2 階で使い分けるオーダー、正面にある Palazzo Ducale のトレイサリーと呼応するような装飾などを施し、ヴェネチアの霧と光による輪郭のぼやきや光の乱反射、また水面から反射する光の煌びやかさを表した豊かで優雅なファサードとなっている。

サンソヴィーノから始まろうとしたこれらの流派をヴェネチア派として確立できなかったのは、サンソヴィーノから主任建築家を受け継いだアンドレア・パッラーディオ Andrea Palladio (1508-1580) の建築が甚大なる影響力を持ったためであると考えられる。しかしながら、流派として確立されなかったヴェネチア派の建築は今でもヴェネチアに建ち続け、その精神性を近代・現代の建築家に受け継がせている。これらの一部を紹介する。